

優秀賞

「いつも、ありがとう。」

群馬県
富士見村立時澤小学校 四年

磯田 和也

ぼくが生まれて、お母さんの手は、いつもいそがしい。

それは、そうじ、せんたく、食事の用意など色々とあり、仕事でつかれていても、ぼくのために、九年間休まず、夜ねる前にならず、マッサージをしてくれます。

ぼくは、生まれた時に両手の指や片足が悪かったからです。先天性の病気です。お母さんは、そんなぼくのために、指が良く働くように、小指の指の骨が、かたくならないように、片足が悪いので、体育や歩いたりすると二日のつかれとなって、こしが痛いそんな、ぼくのために、夜、ねる前には、マッサージをしてくれるのです。

ぼくは、自分の体が、時々、キライになる時があります。それは、みんなにできて、ぼくには出来ない事です。

それは、幼稚園に入つて、ハサミが良くにぎれず切れなかったり、ピアノカも、もつ手が良く使えず、ケンパンも、指のバランスがとれず、おせず、小学校に入つて、くやしかったのは、リコーダでした。ひらいてしまう指が、あなからずれてしまうのです。

そんな時も、毎日のマッサージをするお母さんの手に、ぼくはげまされず。

何せだろう。とつても、あたたかい気持ちになります。

そんな、お母さんに、「手がつかれてない。」と言ったら、「和也は、マラソンせんしゅになれなくつても走る事が出来るし、手が悪くつても、はしも、えんぴつも、ハサミだつて使える。世の中には、たくさん和也より大変な人がいる。友達が、一回で出来る事が、和也は二回三回かもしれないけど、やれば出来るから、がんばつてね。」と言って、「お母さんのお中の中で、ちよつとした交通事故にあつたけど、せつかく生まれたのだから、自分を大切にしておだやかに、みんなの和に入つてほしい。痛みがやわらいでほしいと、和也と、名前をつけたの。」とお母さんが話してくれました。ぼくは、お母さんに、「毎日ごころうさま、ありがとうね。」と、はずかしかったけれど言いました。お母さんは、泣いてしまいそうな感じでした。